

I 目的

学校教育の一環である精進教育の中で小・中学校について高等部の設置が急速にすすめられている現在、その目標が「社会自立」を第一としているので、職業教育に重きがおかれている。仙名市「I養護学校高等部(女子)」では技術・家庭科のうちで「被服・手芸製作」を取組として作業教育をおこなっている。低知能者向けの「指導法」について過去3年に亘り実験を続けているが、学習材料の選定について東北支部会に発表済みである。今回は技法指導について発表する。

II 実験方法

1 被験者 I養護学校高等部1年～3年 41名 入学時測定したIQをもとに群別指導をおこなった。A群IQ 30～40 B群IQ 41～50 C群IQ 51～65 とした。
2 実験材料 (1) 木綿布一晒天竺 (2) 糸一フランス刺しゅう25番糸 (3) 針一刺しゅう針5番、メリケン針4番 3 技法 刺し方を三系統に分類して(*Running stitch* 2 *Outlin stitch* 3 *Chain stitch*)指導した。4 図案 分類した技法をそれぞれ、簡単なものから難かしいものへ段階的に発展させた図案を考案作成して技法指導の実験をおこなった。

III 結果

図案の変化に応じた針運び、糸の扱いがよく理解され、或る程度自分で自由に刺せるようになり学習効果があがった。